



2018年  
みやま

第242号

病院理念

『患者さまの不安をとること』

当院の基本方針

「地域に根ざした安心できる医療」

「精神科医療の充実」

「老人医療」医療と福祉の結合

病院目標『時代が求める価値ある病院づくり』～ネットをつなごう医療の和～

医療法人社団 光生会 平川病院

〔ホームページ〕 <http://www.hirakawa.or.jp/> 〔e-mail〕 [hhsp1966@violin.ocn.ne.jp](mailto:hhsp1966@violin.ocn.ne.jp)



美山町寿会「健康相談会」で血圧測定などを行なう  
当法人職員の様子（平成30年6月29日 美山町会館）



当院敷地内のやまゆり  
（平成30年7月12日撮影）

## 蛍

平成30年6月21日は、日本精神神経学会が神戸で行われたため、いつも当直をしてくれている医師が全員参加することになり、当直を頼まれました。昔は、私も毎週定期的に当直に入っていましたが最近はなかったので、ちょっと嬉しく思い、すぐ引き受けました。夜の病院は昼間と違い、静寂と暗闇が支配し、ときどき誰かの大声が聞こえます。若いころは怖いと思ったこともありましたが、心地よい整った静寂と安らかな夜を感じました。よく父が「この山は神様に守られている。」と言っていました。そんな非科学的なことでも信じてしまうような感じの夜でした。ふと蛍のことを思い出しました。3年前に病院の浄化槽を廃止し、下水道直結になったことから、昨年あたりから病院のすぐ下の小川に蛍がでるようになったと聞いたからです。院内ピッチを持って行って見ました。車のヘッドライトを消して、目を凝らしていると、真っ暗な中に、蛍がフーッと見えてきました。1匹みえると、次々と何匹も何匹も見えてきます。数匹が戯れるように空に上がっていくのも見えました。昔、院長になったばかりのとき、どんな病院にしようかと書き出した中に「蛍の舞う病院」というのがあったことを思い出しました。思いがけないご褒美のような気持ちになり感謝しました。この病院が患者さんを癒し、また希望を持てるようになっていただけのように少しでも努力をしないといけないと初心に帰りました。来年も、また蛍が見られるといいなと思います。

院長 平川 淳一

# 想いのマップと患者様参加のカンファレンス

東3病棟は、平均入院年数約7年（6日～49年）、入院1年以上の患者様が79.5%を占める女子の慢性期療養病棟です。「外来（地域生活）でも、入院でも、長期に精神疾患を持って生活していく方々のオアシスとなる」ことを、病棟の基本姿勢としています。オアシスの役割は、心身の疲れを癒し、心に安らぎと自己回復力を与えます。つまり、地域生活で困った時の休息や心身の再調整の場となり、入院生活にてセルフケア能力を最大限に引き出し、その方が心地良いと思える人生過程への支援、居場所づくりを行なうことです。

国の施策では、当病棟のような「重度・慢性期」の患者様に対し、「本人の意向に沿った地域移行支援」等の徹底実施と、「多職種による推進」「入院1年未満の早期退院」「病院は生活の場であるべきではない」等を求めています。しかし、ご本人もご家族も退院を望まない場合や、長年に渡り精神症状が活発な為に治療継続が必要な場合

もあります。そこで、H29年4月～H30年5月に、患者様の想いをご家族・職員みんなで共有し、新たに1人1人の入院目標や可能性を検討しました。各受持ち看護師と看護助手が中心となり、想いを共有する「想いのマップ」を活用しながら、患者様の過去・現在・未来の生き方・病気・生活に対する想いを聴き、それを基に、患者様・ご家族が参加する多職種合同カンファレンスを45名に行いました。現実的に可能か否かは別として、3名以外の全員が「住んでいた家に、本当は帰りたい」と語り、一方で「1人暮らしは無理と思う」「家族に迷惑をかけたくない」と話す方もいらっしゃいました。3名の方は「今の生活が安心、一生病院にいたい」とのことでしたが、好きなこと得意なことを教えて下さいました。その想いを治療やケアに活かし、任意入院：11名→20名（変更予定も含む）、院内散歩単独：0名→6名、外出単独0名→3名、薬自己管理：0名→3名、自宅相当退院12名（前年度9名、今年度5年以上入院1名）の成果があり、治療・ケアの質の向上（行動制限最小化）にもつながっています。

今後も、1人1人の想いを形にし、オアシス機能を十分に発揮できるように、東3職員一同でパワーアップしてまいります。

東3病棟 師長 津崎 佳世子

想いのマップ			
私らしく生きるために、想いをかたちに、想いを語り、整理し共有し、共に歩みましょう！			
私の名前 ( )		病棟の名前 ( )	
入院年月日 ( 年 月 日 )		入院理由 ( )	
<b>【これまでの私の思い】</b> 【私の好きなこと】 すること: ひと: もの:	<b>【今の私の思い (今起きていること)】</b> 【健康について】 現在の健康状態: 私の思っている状態: 私のできること: 私の苦手なこと・悩んでいること: お金はどこから: 【家族への今の思い】	<b>【これからの私の思い】</b> 【これからの健康について】 変わりたい私 (どんな状況でも大切にしたいこと): 変わりたい私 (どうなれば良いと思う私): これからやりたいこと: 気になっていること: 【これからの生活について】 変わりたい私 (どんな状況でも大切にしたいこと): 変わりたい私 (どうなれば良いと思う私): これからやりたいこと: 気になっていること: 【家族とのこれから】 変わりたい私 (どんな状況でも大切にしたいこと): 変わりたい私 (どうなれば良いと思う私): これからやりたいこと: 気になっていること:	2017年6月25日 東3病棟 山形県中央病院 山形県立中央病院から引継ぎ
【これからの私に近づくための方法】 何が必要? 何をやる? 【いつまでに!】 【出来たこと、出来ていないこと】			
① ( / )			
② ( / )			
③ ( / )			

患者様の想いを共有する「想いのマップ」



## 新しい仲間が増えました！

歯科から

今年度より、私ども歯科室に新しいスタッフ3名が加わりました。最近では、患者さまから「新しい衛生士さん入ったの？」「名前はなんて言うの？」と尋ねられることも多くなりました。そこで、今回は、まだまだ慣れない新しい職場で、日々奮闘し頑張っている彼女たちを紹介したいと思います。

### ●谷口 智美 非常勤歯科衛生士(火曜日・木曜日担当)

子供の小学校入学と近い時期に、私も平川病院の歯科で勤務させていただくことになりました。色々なことを習得していく子供の姿を見られることが、今の私の励みとなっております。早く慣れ、患者様の健康のお役に立てるようになりたいと思っております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

### ●新山 久美子 非常勤歯科衛生士(水曜日・金曜日担当)

5月より非常勤として入職しました歯科衛生士の新山と申します。中学2年生と1才0ヶ月の娘がいます。下の子が生まれる前は、約10年間訪問歯科に携わってきました。新しい環境で学ぶ事も沢山ありますが、歯科室の一員として頑張りたいと思っております。どうぞ宜しくお願いします。

### ●石井 知子 非常勤歯科助手

もうすぐ3才になる息子がいます。歯科の仕事は初めてですが、一生懸命がんばります。よろしく申し上げます。

以上3名のスタッフを迎え、私たち歯科室も総勢10名となりました。

【やさしい歯科】【あかるい歯科】を目標に、日々歯科診療に取り組んでおります。

歯科と言えば、「むし歯で痛い思いをする」と思われるかもしれませんが、「最近、入れ歯が合わなくなってきた気がする」「どこかわからないけど、しみるところがある」「親しらずが気になる」「口があきにくくなってきた」「飲み込みにくい感じがある」「たばこのヤニを取りたい」等々、お口の中のトラブルは色々あると思っております。このように、何かお困りのことがございましたら、私たち歯科スタッフ皆笑顔でお待ちしておりますので、いつでも遠慮なくお声掛け下さい。

歯科 歯科医師 伊藤 光代

## グループホーム おきな草 見学

地域生活支援科より

現在、美山ヒルズの滞在型を利用している方々の平均年齢は67歳となります。高齢化していくなか今後どのような支援を提供して差し上げたらと模索している最中です。そんな中2月に東京共同ホーム連絡会が主催した高齢精神障害者に特化したグループホーム「おきな草・福寿草」（以下おきな草）の見学会に参加致しました。今回はおきな草見学の報告を致します。

おきな草は横浜市保土ヶ谷区の静かな住宅街にあります。平成26年3月に開所されました。開所のきっかけは管理者が障害を抱えた息子と癌で認知症が進行している父親の二人の暮らしを支えたことでした。介護保険ではサービスが不足、ヘルパーの役割として、時にボランティアとして支えていました。そこで誰にでもこのような支援を組織的・恒常的に保障していくには制度化が必要と横浜市に訴えてこられました。

その結果3年間のモデル事業（現在は事業化）として認められました。定員16名で対象者は「満60歳以上、援護の機関が横浜市である事、医療的ケアを必要とするもの」とし、車いすを利用されている方多く、胃ろうや尿道カテーテルを使用している方もいらっしゃいました。精神科医が4週に1回（緊急時24時間対応）、内科医は2週に1回往診し、精神保健福祉士、看護師、介護職員が365日、24時間体制で支援、介護にあたっています。個別支援計画を基に買い物同行や、イルミネーションを見にいたり、家に帰りたいと訴えがあれば家へ同行したりと、介護保険、移動支援を上手く組み合わせ支援を提供し看取りまで行っておりました。



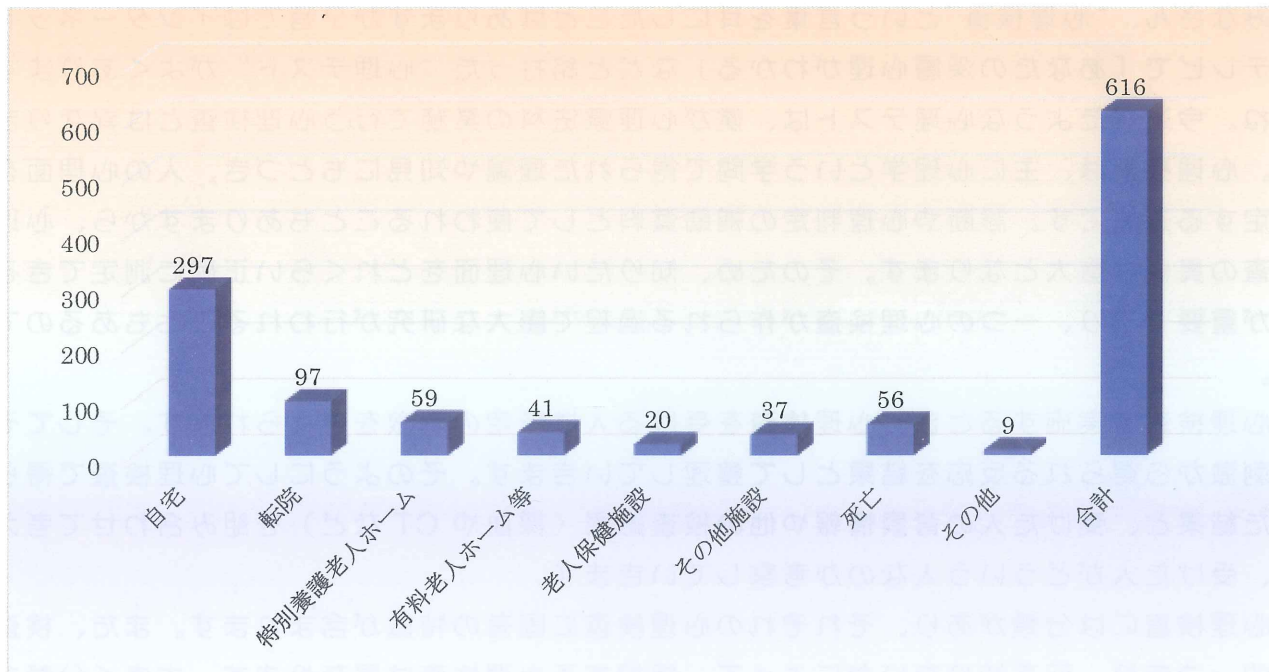
印象的だったのは地域の方々、ボランティアの方々積極的に関わって下さっていました。職員の思いが行政や地域の方々の理解を得て、皆で支えているといった温かさ伝わるホームでした。同じホーム職員として今後もより良い支援を提供できるよう努めていきたいと思えます。

美山ヒルズ 生活支援員 星田 臣子

## 平成29年度 退院先について

平成29年度の平川病院の入退院数の実績は、入院604件、退院616件でした。

今号のみやまでは、退院された616名の患者様の退院先について、医事課や医療相談科の資料をもとにその内訳をみてみました。



退院の合計 616件のうち「自宅」への退院は約半数の297件でした。「転院」97件のうち48件は当院に入院中の患者様の身体合併症の悪化等による治療目的の転院で、残りの49件のうち28件は、他の精神科病院等に入院中の患者様で身体のリハビリテーション目的で入院され、リハビリ終了後に元の入院されていた病院に転院された件数でした。「特別養護老人ホーム」59件、「老人保健施設」20件、「有料老人ホーム等（介護付き有料老人ホーム、認知症グループホーム、サービス付き高齢者住宅等）」41件で、これらの介護保険関連の施設を合計すると120件に上りました。これは、「その他施設（精神障害者のグループホームや救護施設等）」37件を大きく上回り、精神科病院を利用される患者様が介護保険サービスも必要としていることが非常に多いということを表しています。「死亡」の56件のうち、内科病棟が28件と半数を占めています。これは、急性期医療をおこなう医療機関からの転院はもとより、自宅で介護を受けながら生活をしている高齢者の方、介護保険施設に入所されている方などで、がんの末期等、終末期医療等にも積極的に対応しているからと言えます。

今後も引き続き、退院先の動向を把握し、どのような関係機関とより連携を深めていくかを検討していくことで、患者様への医療や支援に生かせるように、平川病院の職員として関心を持っていきたいと思っております。



## 心理のお仕事 ～その1. 心理検査とは～

今回から、前号ご案内した「心理のお仕事シリーズ」を隔月で連載していく予定です。

記念すべき第一回目では、こころを測るための道具である心理検査について、自称「脱メガネ・ベスト」こと、わたくし内田がご紹介します。

みなさん、“心理検査”という言葉を目にしたことはありますか？巷ではインターネットやテレビで「あなたの深層心理がわかる」などと銘打った“心理テスト”がよくありますよね。今述べたような心理テストは、僕が心理療法科の業務で行う心理検査とは異なります。心理検査は、主に心理学という学問で得られた理論や知見にもとづき、人の心理面を測定する道具です。診断や心理判定の補助資料として使われることもありますから、心理検査の責任は重大となります。そのため、知りたい心理面をどれくらい正確に測定できるかが重要であり、一つの心理検査が作られる過程で膨大な研究が行われることもあるのです。

心理検査を実施するとき、心理検査を受ける人は特定の刺激を与えられます。そしてその刺激から得られる反応を結果として整理していきます。そのようにして心理検査で得られた結果と、受けた人の背景情報や他の検査結果（採血やCTなど）を組み合わせ考えて、受けた人がどういう人なのか考察していきます。

心理検査には分類があり、それぞれの心理検査に固有の特徴が含まれます。また、検査目的の一つまり、何を知りたいかによって、採択する心理検査は異なります。大きく分類すると、①知能検査、②パーソナリティ（性格）検査、③神経心理学検査の3つに分けられます（表「心理検査の分類」を参照）。

表「心理検査の分類」

①知能検査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に適応して対応する力</li> <li>・いろいろ試しながら問題解決する力</li> <li>・能力間の得意／不得意のバランス</li> </ul> など
②パーソナリティ（性格）検査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対人関係のパターン</li> <li>・ストレスに対する耐性</li> <li>・物事や出来事の捉え方の傾向</li> <li>・自己イメージ</li> </ul> など
③神経心理学検査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳機能やその変化、障害の程度の評価（言語、思考、認知、記憶、行為、注意 など）</li> </ul>

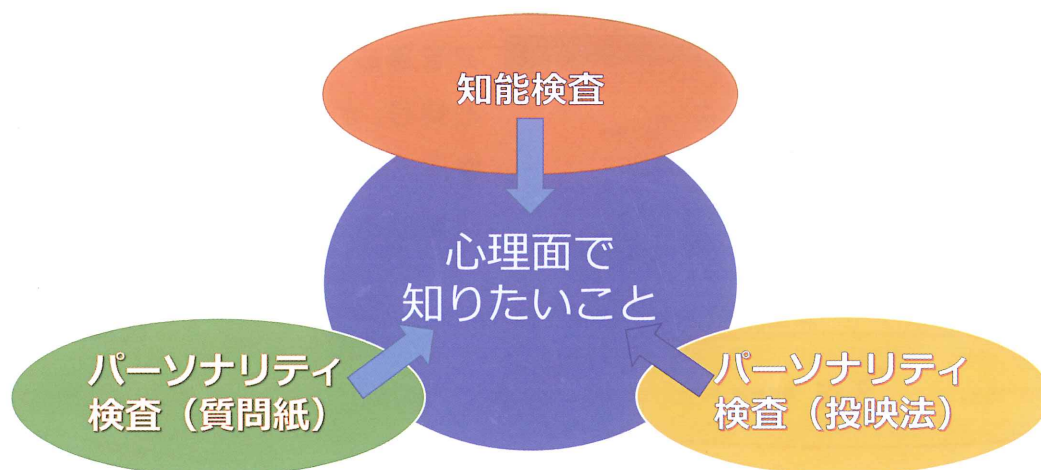
①知能検査は知能を測定するための道具です。そもそも知能とは、「環境に適応し、新しい問題状況に対処する知的機能・能力」（広辞苑より）と定義されています。つまり、知能検査でみているのは、単にお勉強がどれくらいできるのかということだけではなく、何かしら問題に直面した際の適応・対処能力をみていると考えられます。

②次いで、パーソナリティ（性格）とは、「各個人に特有の、ある程度持続的な、感情・意志の面での傾向や性質。ひとがら」（広辞苑より）と定義されます。パーソナリティを様々な側面からみるため、パーソナリティ検査は質問紙法、投映法に分類されます。

質問紙法は街角アンケートのように多くの質問文に答えて評価する方法です。投映法は漠然とした刺激に対して示された反応を分析する方法です。ですから、同じパーソナリティ検査と言っても、質問紙法は結果にその人の自覚されている部分が反映されやすく、投映法はあまり意識されていない部分が反映されやすいと考えられています。

③神経心理学とは、脳と心理や行動との関係を見る学問領域です。脳は部位別に様々な機能やはたらきがあります。たとえば、神経心理学検査では、受傷前後によってどの脳機能が低下、保持されているのか評価し、その結果、生活にどのような影響があるのか推測するために用いられます。

心理検査にいろいろな分類があることからわかるように、ただ一つの検査や方法を採用ただけでその人のすべてがわかるわけではありませんし、一面的な理解になってしまいます。そのため、私たちは検査目的に即して特徴の違ういくつかの心理検査を組み合わせ、いろいろな側面から理解しようとしています（図「心理検査の組み合わせの一例」を参照）。



図「心理検査の組み合わせの一例」：  
環境に適応して対応する力（知能検査）、自覚のある対人関係パターン（質問紙法）、  
自分であまり気づいていない対人関係パターン（投映法）を知りたいときの一例

心理検査を実施すると、その結果を参考にして今後の支援の方針を考えることができます。心理療法や精神科リハビリテーションなどの治療資源を導入する可能性、生活を共にする方の関わり方の工夫を検討するとき、心理検査の結果は有効な手がかりとして使われます。

最後に、心理検査は受ける人の『可能性』を探るための道具であり、単に障害を同定するためのものではありません。また、心理検査が測定しているものは“目には見えないところ”ですから、物差しを使って目に見える線分の長短を差し測るのとは違い、心理検査の結果が絶対ではありません。心理検査結果から得られた『可能性』が極めて重要で、もし、心理検査を受けて、受けたご本人や関係者で結果を聞く機会があれば、受けた人の『可能性』についてよく話し合えると良いのではないかと思います。



# TOPICS! 発達障害専門外来について

発達障害は生来からの発達の偏りなどによる疾患群を指し、代表的なものでは自閉症スペクトラム障害、注意欠陥多動性障害、学習障害などがあります。以前は特徴の強い子供たちを児童精神科医が診療するという状況でしたが、平成17年発達障害支援法の施行から急速に発達障害の概念が認知されるようになり、学校や行政から軽症例の紹介が増えました。インターネットやテレビなどでも特集され、「私の気持ちを汲んでくれない、自分の夫も発達障害ではないか?」「高学歴なのにコミュニケーションの問題で仕事がうまくいかない」といったご相談で、大人の方が成人の精神科を受診されるケースも増えていきます。こういったニーズに応えるべく、発達障害専門外来を始めました。

【当院ホームページ】平成30年7月現在



また、就労していない方を対象としたデイケアも併せて開設しました。デイケアを通じて「同じように悩む人がいる」と知り、どのように対処しているのかを学ぶことがとても参考になるようです。詳細はホームページをご参照ください。

医師 渡部 洋実

ご予約は 042-651-3131 (病院代表) までお電話下さい。

## 当院は南多摩医療圏の地域拠点型認知症疾患医療センターです

東京都では、平成24年に指定された「地域拠点型認知症疾患医療センター」12カ所（当院含む）と平成29年11月迄に指定されている「地域連携型認知症疾患医療センター」40カ所、合わせて52カ所の医療機関において、認知症の人とその家族が安心して暮らせる地域づくりを進めています。認知症に関するご質問がありましたら、各地域のセンターまでお問い合わせ下さい。尚、センター指定状況や役割の詳細等については、東京都公式ウェブサイト『とうきょう認知症ナビ』でご確認いただけます。

とうきょう認知症ナビ 🔍 検索

### 編集後記

私が小学校の時、巨人のV9が途絶えた。男子の人気スポーツと言えば文句なく野球であった。担任の先生に「日本では野球が一番人気かも知れないが、全世界で競技人口が多くスポーツの大会で最高峰なのは、サッカーのW杯である」と聞いてそうなんだ（初耳）とサッカーに関心を持った思い出がある。しかしながら当時のサッカーは、五輪やW杯予選ではことごとく敗戦し、本場に弱かった。Jリーグ創設、ドーハの悲劇を経て、1988年のフランス大会予選では岡野のサヨナラゴールは生中継で見て感激（祝）……時代は流れて日本がアジアではW杯の出場常連国となり、今大会の活躍となった。そして小学生ではサッカーが野球人気を超えたと言われる。今後ベスト8……優勝も夢ではないと（祈）頑張れニッポン！

医療法人社団光生会 平川病院

東京都八王子市美山町1076  
電話 042-651-3131  
FAX 042-651-3133

編集 平川病院 広報委員会

ご意見ご感想はこちらへお願いします  
kouhou@hhsp1966.jp

